

シラバス作成例

1. 科目名	社会学概論(教育・保育コース)	単位数2
2. 授業担当教員	関国 大	
3. 授業科目の区分	共通必修	必須・選択の区分 必須
4. 開講学期・年度	2012年度春学期	3～6は後日、教務課にて入力します。
5. 履修可能な専攻	教育学部	
6. 取得資格の要件	中学校教諭(社会) 高校教諭(公民) 幼稚園教諭 小学校教諭一種 精神保健福祉士 社会福祉士 保育士資格	
7. 研究室	888	
8. 電話番号	06-6496-****	シラバスは公開されますので、私的な電話番号やメールアドレス等、プライベートな情報の取り扱いには十分ご注意ください。
9. E-Mail Address	h-maps@kuins.ac.jp	「講義」「演習」「実習」「実技」「講義・実習」のいずれかを別紙配布の資料で確認のうえ、記入してください
10. 授業形態	講義	この授業の目的と内容の概要を示してください。できるだけ学生を主体として表現してください。
11. 講義概要	教育・保育・福祉問題の背景にある、私たちの社会生活に関連するいくつかのトピックをとりあげていく。現代社会の持つ特質と課題について、グループメンバー間の議論を通し客観的且つ多面的に考察を深めていくことで、多様で柔軟な視点や思考の形成をめざす。	学科のカリキュラムマップをもとに、科目で定められた「学科の学習目標」と「KUIS学習ベンチマーク」を記入して下さい。本文の後に「具体的には...」「この科目では...」といった補足を加えたり、趣旨が変わらない範囲で文言を変えたりしてもかまいません。
12. 学習目標・及び目標とするベンチマーク	<p>■学科の学習目標 「教育・社会現象を、教育や福祉の観点から研究する方法を複数知っている。」 ・具体的には、講義で取り上げる社会学上の重要語句を理解し、現代社会における教育や福祉の特徴についてそれらを用いて客観的に説明することができるようになること。</p> <p>■KUIS学習ベンチマーク 「<u>順法性／協調性：複数の人々と暮らす社会や学校での規則、決まりごとを尊重し、自分を見失うことなく、協調性を発揮して、規則などを順守し、社会的な目的を果たすことができる。</u>」 ・具体的には、授業や授業内で行われるグループワーク等の取り組みに、教育・福祉を学ぶ者として相応しい振る舞いができるようになること。指示を順守し思いやりのある協調的態度で、相互の学びを高めることができるようになること。</p>	
13. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>■グループワークのワークシート(3回分)10点/回 ・グループワークを行った翌週の授業時(第5・10・14回)に提出する。 ・評価は配付するルーブリックに基づいて行う。</p>	<p>単位の実質化の観点から、授業期間中にレポートなどの中間課題を課すようお願いいたします。シラバスには、「レポート課題」「課す時期(日付)」「配点」を明記してください。</p> <p>WebClassやEポートフォリオを活用してください。</p>
14. 教科書	松田健(2008)「MINERVA TEXT LIBRARY 30 テキスト現代社会学 第2版」ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-04976-9	教科書販売の準備のため、著者・編者、出版社名、出版年、ISBN等、できるだけ詳細に記入してください。
15. 参考書		教科書は、授業で使用し、学生の購入が必要であるもののみ記入し、選定にあたっては、内容がわかりやすいものや、資格養成科目であれば、指定のものなど留意してください。
16. 成績評価の方法(中間評価、最終評価の方法等)	<p>①授業のまとめシート=10%(当日の学びのポイントを400字程度でまとめる) ②グループワークのワークシート(3回分)=30%(グループワークを行った翌週の授業時に提出する。) ③小テスト=10% ④総括試験=50%</p> <p>・授業のまとめシートおよびグループワークのワークシートの評価は、配付するルーブリックに基づいて行う ・①③④は学科の学習目標達成、②はKUIS学習ベンチマーク達成の評価に用いる</p>	
17. 受講生へのメッセージ	教育・保育・福祉の領域で求められる順法性や協調性を身につけるために、授業の中にグループワークを取り入れる。学びやグループメンバーに誠実な態度で向き合う事。	
18. オフィスアワー		<p>評価方法は、できるだけ詳細に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●成績評価の方法を宿題・レポート課題に対応させて書いてください。 ●積み上げ得点方式でも構いません。最終的に100%にしてください。 ●中間課題の配点を明記してください。 ●成績評価は、授業途中の評価(中間試験等)だけでなく、総括試験、本試験など総合的な評価を必ず行ってください。 ●原則として、総括試験、本試験の配点割合は40%以上50%以下とし、総括試験、本試験のみでの評価とならないようにしてください。 ●出席点は評価に含めないでください。

・先行して履修すべき科目、並行して履修すべき科目、今後履修すべき科目
・LCに関する情報
・人数制限に関する情報(演習、実習、実技のみ)
・この科目を履修する上でのポイントや心構えなど

シラバス作成例

授業展開及び授業内容

第1回(4/11)社会学とは何か…教科書pp.1-16

- ・教育・保育・福祉と社会学の関連性について説明を行う。
- ・授業シラバスを必携のこと(このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにすること) ◆ノートパソコン利用◆

第2回(4/18)地域社会①…教科書pp.47-55

- ・地域社会の概念について整理する。変遷する地域社会のあり方に関する社会学上の捉え方について学ぶ。

○次回までに、第1回、第2回の授業について的小テストweb classを実施する

「教室外学習」について、各回の間に記述する。

○=個人による学習

第3回(4/25)地域社会②…教科書pp.56-65

- ・地域に関する諸問題を概観する。地域社会やグローバル化と教育・保育・福祉問題について学ぶ。

第4回(5/2)文化と比較社会①…教科書pp.65-69

- ・規範や逸脱の背景や働きを学ぶ。

◎次回の授業までにグループ内で次回のテーマについて事前に議論し、5回目の授業で発表する。

個人作業
とグループ
ワークを
区別して
記入して
ください。

第5回(5/9)文化と比較社会②…教科書pp.70-76

- ・社会生活における地位や役割、準拠集団の機能について学ぶ。
- ・グループワーク①:テーマに基づいてグループ内で議論した結果をまとめる。

テーマ:教育・保育・福祉にとって規範や逸脱とは?

→グループワークシート①は次回に提出すること。ワークシートには文化と比較社会で学んだ専門用語を用いること。

「教室外学習」について、各回の間に記述する。

◎=グループワークによる学習

グループワークは4週で1課題を目安にする。

第6回(5/16)社会階層①…教科書pp.82-85

- ・社会階層の例について、アメリカ社会、インド社会、および近世以降の日本社会を比較する。
- ・グループワーク①のワークシートを提出する。 ◆ノートパソコン利用◆

ノートPC持参の回は、シラバスに明記してください。

第7回(5/25)社会階層②…教科書pp.86-98

- ・共産主義の理論的背景となったマルクスの階級理論を概観する。

○次回までに、第3回～第7回の授業について的小テストweb classを実施する

第8回(5/30)エスニシティ①…教科書pp.99-103

- ・人種と民族の相違や民族間の緊張関係について学ぶ。

第9回(6/6)エスニシティ②…教科書pp.104-116

- ・日本社会におけるエスニシティと教育・保育・福祉に関連する課題を理解する。

◎次回の授業までにグループ内で次回のテーマについて事前に議論し、10回目の授業で発表する。

第10回(6/13)小テスト:これまでに学んだ重要用語(テキスト太字ゴシック箇所)の定着について確認する。

- ・グループワーク②:テーマに基づいてグループ内で議論した結果をまとめる。 ◆ノートパソコン利用◆

テーマ:教育・保育・福祉にとってのエスニシティとは?

→グループワークシート②は次回に提出すること。ワークシートにはエスニシティで学んだ専門用語を用いること。

レポートや課題を課す時期を、明記してください。

第11回(6/20)ジェンダー①…教科書pp.117-130

- ・性に関する3つの構成要素とセクシズムの現状と課題について学ぶ。
- ・グループワーク②のワークシートを提出する ◆ノートパソコン利用◆

第12回(6/27)ジェンダー②…教科書pp.131-137

- ・日本における女性の就労問題と、教育・保育・福祉との関連について学ぶ。

第13回(7/4)家族…教科書pp.138-151

- ・家族に関する概念について学ぶ

◎次回の授業までにグループ内で次回のテーマについて事前に議論し、14回目の授業で発表する。

第14回(7/11)・グループワーク③:テーマに基づいてグループ内で議論した結果をまとめる。

テーマ:教育・保育・福祉にとって家族とは?

→グループワークシート③は授業の最後に提出すること。ワークシートには家族で学んだ専門用語を用いること。

- ・これまでの学びのまとめを行う。

第15回(7/25)総括試験

(30コマ)の場合、回を追加して記入して下さい。

《例》

【第16回】(〇)●●●●●●●●

【第17回】(〇)●●●●●●●●

【第18回】(〇)●●●●●●●●

【第19回】(〇)●●●●●●●●

・

・

・

- 5W1Hを念頭に各回の後に授業日を必ず書いてください。
- できるだけ具体的な授業内容および授業方法を書いてください。
- 必ず1コマあたり15回の授業の計画を作成してください(週2コマ授業の場合は、30回になります)。「予備日」などの記載は避けてください。
- 授業回数は原則15回です。平常試験(総括試験)を14~15週目に実施することが可能です。
- 15回の授業が必要とされる(例えば、保育士関連科目等)場合は、15週終了後に別途定めた期間に定期試験を実施することになります。

《過去のシラバスの参照方法について》

- ユニバーサルパスポートからご参照ください

《学生への配布方法について》

学生が各自UNIVERSAL PASSPORTからWebシラバスをダウンロードし、印刷します。学生には、授業に携行するようにご指導ください。